



しあわせ便り

第27号

しあわせ創研が「長島町の皆様だけ」に、しあわせをお届けします。

発行者：しあわせ創研(社会保険労務士事務所)
社会保険労務士 門元 隆臣
携帯電話：090-5249-4848

鹿児島県出水郡長島町蔵之元230番地 〒899-1301

Fax/Tel: 0996-88-5326

Mail: info@shiwase-ci.com

WebPage URL: http://shiwase-ci.com/

スマホ登録
QRコード



～ご相談はご連絡いただければ当方が伺います～

しあわせ便りは一人の社会保険労務士、門元隆臣の個人的見解を発信しているものであり、他の社労士諸氏にはまた別の考え方もある旨ご承知おきください。

◆気になるあれこれ「2030年 コロナ後の世界2」 〈共存の新たな世界〉

アジアの大国で、2019年の終わりに発生したとされる、新型コロナウイルス感染症(以下「COVID-19」と書く)が瞬く間に世界中に拡散したのは、2020年だ。同年後半には南半球で爆発的に感染者が増加し、その後3年で3000万人を超える感染者と150万人を超える死者を出したことは、忘れられない記憶だ。

発生から10年の今、世界がどう変わったかを振り返ってみよう。

拡散から3年後には、早くも治療薬とワクチンが実用化され、5年後には極端に恐れる病気ではなくなった。ただし、予防や治療ができてCOVID-19が撲滅されたわけではない。ワクチンによる免疫と早期の治療により、共存することになっただけだ。

COVID-19に限らず、インフルエンザやウイルス性肝炎などで、毎年数十万人規模の犠牲者が出ていることを重く受け止めた国際社会は、例外的に協調することを決めたのは去年のことだ。半年ごとに抗体や感染の有無を検査することを義務付けることになり、そのデータが個人情報として共有されることが示されたのは記憶に新しい。その感染のレベルによって、移動や行動が制限されるのだ。身に迫った危機が訪れないと、人類は手を結べないことを改めて思い知ることとなった。

ソーシャルディスタンスという言葉が一時合言葉になったが、物理的に人と人の距離を遠ざけたCOVID-19は、世界規模で経済を停滞させた。当時、デジタルインフラが急速な進化の過程であったことが幸いし、停滞は一時的なものであったが、多くの業界は産業構造の変化を強いられた。10年以内に、AIに仕事を取って替られると囁かれていた職種は、その流れが加速した。

デジタルが活用できる産業は、さらなる進化を遂げることができたが、現業といえる人や物が動くことで成り立つ産業はいまだに模索を続けている。

一方、人々の生活は様変わりを見せている。日本の象徴でもあった、朝夕の通勤電車の混雑も今は皆無で、時刻表もまばらになった。自由に移動ができないことの弊害は基幹産業に浮沈をもたらす。自動車販売が激減し、旅行や飲食などの娯楽産業は今も低迷を続けている。しかし、人口集中を嫌い、都市から離れる人も増えつつある。やはり人はバーチャルだけでは信頼も信用も、満足も得られないことや、人の強かさを再確認する日々が始まった。
・・・つづく

お知らせ

・労働保険(雇用保険・労災保険)年度更新期限が、7月10日から8月31日に延長されています。

8月の総務課ダイアリー

・8月10日…源泉所得税・源泉所得税特例納付期限

4コマまんが

行け、しあわせさん!!

Vol.27 しあわせ共有する?

